

登録コード:MH133200 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	母性看護学概論【20M以降】 Introduction to Maternity Nursing		
担当教員	中込 さと子		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻/ 2 年 前期(前半) 火曜・ 2 時限		
単位数、講義室	1 単位	多目的講義室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標
	MH20カリ・保健		
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。	A-1 性と生殖をめぐる様々な課題をもつ人々を理解するための諸理論を理解する。	
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。	A-2 女性の身体の形態と機能の変化と婦人科疾患の治療法と予防法について理解する。	
	保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できる。	B Sexual & Reproductive Health & Rightについて倫理的法的社会的視点から理解する。	
	MH25カリ・保健・看護, MH23カリ・保健・看護		
	基礎的・専門的な知識と技能 看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	A 性と生殖をめぐる様々な課題をもつ人々を理解するための諸理論、女性の身体の形態と機能の変化と婦人科疾患の治療法と予防法、Sexual & Reproductive Health & Rightについて倫理的法的社会的視点から理解する。	
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	B Sexual & Reproductive Health & Rightの概念の上に成り立つ女性の自己決定権をめぐる諸問題について、日本と国際的視点から捉える探究心と、課題克服のための基礎力を獲得する。	
授業で学べる「テーマ」	多文化協働		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	本授業では、性と生殖をめぐる様々な課題をもつ人々を理解するための諸理論を学習し、広い視野で母性看護実践を捉えることを目的とします。 本授業は、担当教員の周産期医療における看護職者、おもに助産師・認定遺伝カウンセラーとしての実務経験を活かして、講義を行います。 本授業は、1年次の「人体の構造と機能 ・ 」 「遺伝と病気」の講義の理解が必要です。また選択科目「ヒューマンセクシュアリティ」とも連携しています。この科目は今後の「母性看護健康論」「母性看護方法論」「母性看護学実習」の基盤となる科目です。男女共同参画に関する内容を含みます。		
授業計画	第1回(4月14日) ガイダンス Sexual & Reproductive Health/Right セクシャリティとジェンダー 第2回(4月21日) 生殖に関する生理、妊娠のメカニズム、胎児の成長 第3回(4月28日) 生殖における健康問題：女性の健康と妊孕性、生殖補助医療に関する理解 第4回(5月12日) 中間試験（45分）/ プレコンセプションケア・包括的セクシュアリティ教育 第5回(5月19日) リプロダクション（産む、産まない、産めない）に関するプレゼンテーション 第6回(5月26日) ダイバーシティ（多様な資質）に関するプレゼンテーション 第7回(6月 2日) ジェンダー平等に関するプレゼンテーション 授業アンケート 第8回(6月 9日) 最終試験日（90分）		
授業の進め方	・第1回から毎回、指定図書のリーディング課題にそった多肢選択問題（e-Alps内に掲示する）を用いて予習・復習しましょう。 ・第1回講義時にグループを公表します。1グループ6-7名です。 グループワークの大テーマは4月中に決定します。 小テーマは各グループで話し合って決めてください。テーマは第4回の講義までには決めましょう。 ・第4回は中間テスト（第1～3回までの知識の確認）をします。ノートパソコンかタブレットを持ってきてください。 ・第5～7回はグループ発表をします。学生は他のグループ発表に対する感想を提出します。 ・講義はテキストに基づいて、資料やパワーポイントスライドを用いて進めますが、能動的に学習を広げる力を獲得することを目指し、質疑応答にも重きを置いて展開します。予習・復習を通して自身が感じたことや考えたことを、他者に伝えることを通して、母性看護学、リプロダクティブヘルスに関連する諸理論について理解を深めていきます。		
テキスト、教材、参考書	必携テキスト ナーシング・グラフィカ 母性看護学 概論・リプロダクティブヘルスと看護、中込さと子・小林康江・荒木奈緒 編、株式会社メディカ出版・2600円+税		

テキスト，教材，参考書	参考図書（医学部図書館にあります） 母性看護概論（医学書院、医歯薬出版株式会社、メヂカルフレンド社など） 産科学、婦人科学（南江堂、メディカルビュー社、文光堂など）
成績評価の方法	1)各講義の内容にあった予習・復習用の多肢選択問題をeALPSにアップします。 中間試験は多肢選択問題20問を出します。1問1点、20点満点です。 2)個人レポートは2回提出します。1回目は第2回講義(4月21日まで)、2回目は第3回講義(4月28日まで)です。個人レポートのテーマは各自のグループテーマに関連する内容を自分で設定してください。個人で資料やニュース、メディア記事等を用いてレポートを作成してください。各5点、10点満点です。 3)グループ発表は20点満点です。これはグループ全員が同得点です。 4)最終試験は50点満点で、多肢選択問題が35点、論述問題15点です。 以上、個人レポート10%、中間試験20%、グループ発表20%、最終試験50%で合計したものを最終評点とします。合計が60点未満は不可とします。
成績評価の基準	成績の判定評価は、下記の通りです。 90-100点：秀 80-89点：優 70-79点：良 60-69点：可とします。 【中間試験と期末試験】 授業の達成目標Aを評価します。授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある(可)」、やや詳細な回答内容であれば「やや上にある(良)」,十分に詳細な回答内容、やや難しい問題が解ければ「かなり上にある(優)」,授業で説明した範囲以上に自身で能動的に学習した詳細な回答内容であれば「卓越している(秀)」とします。 【個人レポート、グループ発表】 授業の達成目標Bの到達度を評価します。 (1)問題の設定が適切であり、(2)その問題の背景を説明できており、(3)その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(4)それらの課題に対して既存の学生が提示する解決法が適切に把握できており、(5)そのうえでグループ(または個人)の見解を提示できており、かつ、(6)教員を感心させるレベルにあれば「卓越している(秀)」, (1~5)の5項目を満たしていれば「かなり上にある(優)」,4項目までできていれば「やや上にある(良)」,3項目までなら「水準にある(可)」。 期末試験の論述問題は、授業達成目標Bの到達度を評価します。 記述式回答における用語の適切さ、説明内容の範囲の広さや詳細さ、説明内容の論理的な妥当性などを指標とします。
事前事後学習の内容	本授業の単位習得には45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。授業時間15時間(2時間×7.5回)+自己学習時間30時間(4時間×7.5回)=45時間 本授業の指定テキストで予習し、事後にeALPSの小テストを用いて復習しましょう。第4回で中間試験、第8回で最終試験を行います。 第1回 2章1,2項、4章2,3,5項、5章1,2項 第2回 6章、4章1,4項、5章3,4項 第3回 7章、9章 第4回 2章3節 第5~7回 クラスメートのプレゼンテーション資料
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	中込のメールは以下のとおりです。(snakagomi@shinshu-u.ac.jp) オフィスアワーは曜日を固定していません。メールでアポイントの連絡をください。個別に日時を合わせます。研究室は保健学科棟中校舎3階にあります。